

校名：弘前大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒036-8152 弘前市学園町1-1
電話番号：0172-32-6815

記載日： 28年5月17日 記載者：今 由香理 記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本園は、市内の閑静地に位置し、周りや園庭にも木々が多く配置されているため、自然豊かな四季の移り変わりを体感することができる。また、園庭も広く、近隣の幼稚園や保育園等では類を見ない程である。そのため、木々の間に園児が自分たちで考えたアスレチック（ロープ渡り）を作ったり、虫取り場に秘密基地を作ったりなど、自然と固定遊具を上手く活用した遊びの場を園児自身が作り出している。

このような環境から、本園では園児が自分たちで遊びの場を考えたり、必要な材料を集めたりしながら、遊びを作り出しているのが特色である。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法
 - ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）
 - ③ 状況を具体的にお書きください
- ① 追跡調査はしていない
 - ② 把握はできていないため、どこも情報を持っていない。
 - ③ 全くわからない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法
 - ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）
 - ③ 状況を具体的にお書きください
- ① 追跡調査はしていない。
 - ② どの学校へ戻ったかはわかるが、その後の異動や活躍等については把握していないため、どこも情報を持っていない。（近隣地域に異動した場合は、噂等で聞く程度である）
 - ③ 公立の小学校へ戻っているが、教諭はそのまま教諭を続けており、管理職（副園長）は教頭及び校長として活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：【いくつかの事例を記載いただいても構いません。大学や地域との連携、PTA や外部人材の活用、その取り組みがある一定のスパンのもとに実施されているか（前後の授業や活動などと、どのようにリンクしているか）、地域（公立学校など）へ還元されているかなどについても、わかりやすく記載してください】

1 栽培活動について

本園では、下記の通り学年毎に食物を栽培し、世話をしながら成長過程を観察し、収穫の喜びを体験できるような場を設定した。その際、大学（理工学部及び教育学部）の先生方に協力いただき、園児一人一人が土嚢袋一つを担当し、その土嚢に落花生やジャガイモ等を植え、世話をを行った。土嚢を活用することで、次のような利点が挙げられる。

①鉢よりも深さが出てくる。

→土の上の変化（芽が出る、花が咲くなど）だけでなく、土の中の変化（根が伸びる、ジャガイモや落花生ができるなど）にも触れることができるため、園児も大いに興味を持ち、驚きや不思議さを感じていた。

②水をあげすぎても、ある程度袋からしみ出てくれるので、世話がしやすく、根腐れすることがない。

③鉢をも購入するよりも、安価で手に入れることができる。

また、一人が土嚢一袋を担当することで、「自分の〇〇」という意識が自然に生まれ、成長の観察や世話などに継続して、積極的に取り組むことができた。



「葉っぱがもこもこだよ」



「ジャガイモが出てきた！」



「見て見て、大きいよ」

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：（一般論ではなく、できるだけ、具体的な状況が理解できるように記載してください）

- ・青森県内では、幼児教育にかかわる公開研究会を開催する幼稚園等がなく、本園が唯一県内で公開研究会を行い、幼児教育の在り方を提案している存在である。そのため、幼稚園だけでなく、保育園や認定こども園からの参会者も多く、公立の小学校からも幼小連携を意識して参会する教諭も少なくない。また、幼稚園教諭・保育士・保育教諭だけでなく、大学関係者（国公立）や教育事務所等の幼児教育担当者も一堂に会し、保育実践をもとにそれぞれの立場から意見交換できる唯一の場となっていることもあり、幼児教育推進を進めていく上で、なくてはならない存在となっている。
- ・県や地域の教育委員会等に、国立（公立的）法人の立場として、現状や現場の声を届けることで未来を担う子どもたちへの教育の保障及び質向上につなげる役割を担っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：（現在、この国では少子化の中、少し広域に見るとミッションの重なる教員養成系大学、教育実習の場、教育研究校が存在し、そのような中、教員養成数の削減、そのための場の削減、ひいては附属学校の存在意義までが議論されています。そのような現実の中、一般論ではなく、できるだけ、貴校の実績にもとづいて、この国に附属学校が、この国および地域に貴校が、必要であることをアピールしてください）

- ・文部科学省の方針や解説を直接伺う機会があるため、文部科学省の指針からぶれずに保育実践を進めたり、県内の関係諸機関へ公開研究会などの機会を利用し、現場の立場から情報を提供したりすることができる。これは利益等に振り回されることなく、純粋に保育の質を高めることにつながるとともに、現場の声を行政に届ける役目を担っている。
- ・私立幼稚園や保育園及び認定こども園に見られがちな英語や体操、音楽などのような特別な内容を重点的に行ったりしているような保育ではなく、子どもたちの発達段階を踏まえ、一人一人の園児の興味関心や追求したい気持ちを大切にされた保育を行っているので、子どもたちの遊びが連続し、継続する。
- ・国立法人として文部科学省と連携を図り、保育実践を進めたり実践成果を報告したりすることで、データを提供することができる。これは今後の指導内容や教育要領の方向性につながるものとする。

以下、このページいっぱいまで、ご自由にお使いください。